

『NEW TREASURE 授業研究会』ご報告

日時：2016年7月9日(土)10:50-16:00

場所：追手門学院中学校・高等学校

【第一部】

公開授業①10:50-11:40

○中1(NEW TREASURE STAGE1)授業テーマ

「何となく聞こえる」から「私だって話せる」へ

若林 貴史 先生

○中2(NEW TREASURE STAGE2)授業テーマ

会話表現 内在から活用へ

中村 佳代 先生

公開授業②11:50-12:40

○中3(NEW TREASURE STAGE3)授業テーマ

テキスト発！コミュニケーション活動

田橋 知直 先生

【第二部】

研究会 13:20-16:00

○ご挨拶 追手門学院中学校・高等学校 副校長 藤原秀彦先生

○ご挨拶 京都女子中学校・高等学校 ESN関西代表 吉川大二郎先生

○公開授業振り返り・質疑応答

○意見交換会

「各校の英語教科におけるアクティブラーニング型授業の取り組みについて」

【第一部 公開授業概要】

※詳しくは各授業の動画をご覧ください。

○中1：若林先生

NEW TREASURE STAGE1 Lesson7 の Communication をもとに、前半は教科書をベースに重要な会話表現などを学ぶ授業が行われました。先生の model reading に続いて生徒がリピートしたり、Activity+ のリスニング問題に取り組んだりしていました。後半は地図案内のアクティビティが行われました。教室の方々に貼られた店や建造物の絵とそこまでの道案内の SCRIPT を使いながら、プリントを完成させるものでした。全体として、生徒が学んだことを OUTPUT させることに重点を置いた授業展開でした。

中1でのオールイングリッシュ型授業とアクティビティにおける生徒の意欲的かつ積極

的な姿勢に対して、驚きと賞賛の声が寄せられました。その一方で、先生からの指示を把握しきれていない生徒への対応や、生徒のアウトプットの増やし方など今後に向けた課題も見受けられました。

○中2：中村先生

NEW TREASURE STAGE2、Lesson2 の Communication(p.38)のパートを用い、生徒への質問、指示などすべて英語で指示・指導をされていました。また自作のプリントを使って、生徒が本文を繰り返し何度も音読できるよう工夫されていました。前半では本文のリスニングの後、重要表現、文法、語句を確認し、ウィスパーリーディングを中心に活動し、後半ではペアワークを交えながら生徒自身でライティングや発話といった OUTPUT 中心の授業でした。

音読する際、生徒が顔を上げて発音練習できるような自作教材が使われていました。生徒自身、INPUT したことを「まとめ、考え、人に伝える」という英語でのコミュニケーションに不可欠な学びを短い授業時間の中で取り入れておられました。生徒に常に笑顔で接し、生徒の関心を引きつけ、テンポよく進められている授業に対し、後ほどの振り返りで見学された先生方から賞賛の声が多数寄せられました。

○中3：田橋先生

NEW TREASURE STAGE2 Lesson10 Grammar Part3 の授業で、全て英語で行われました。先生自作の資料を電子黒板に映写し、書き込みながら進められていました。始めに学習項目の背景知識を紹介した後、生徒一人ひとりが大阪のおススメを紹介するという目標活動を明示。この目標の達成に必要なスキルを身に付けるためにリスニング、文法、読解といった活動を丁寧に指導されていました。その際、ペアワークを効果的に活用。例えば、生徒同士でリスニングの解答チェックや発音のチェックを行い、生徒が自分で課題に気づき、自身の考えをまとめ、OUTPUT できる機会が多く設けられていました。

板書はタブレットで撮影させ、授業のレビューは宿題に反映するなどして授業の効率を上げ、音読活動の時間をできるだけ確保するという工夫をされていました。短い授業時間の中で、時間をかけるところと効率化するところうまくバランスを取っていると、後ほど見学された先生方から賞賛の声が寄せられました。

【第二部 研究会概要】

○公開授業振り返り・質疑応答

授業をオールイングリッシュで行う際の問題点（例えば英語オンリーだと生徒が授業を理解できないのではないかなど）について質問があり、これに対し田橋先生は、本書では習った内容が繰り返し出てくるので、1回の授業でわからなくても、後の授業で再度扱って

理解させることができるという回答でした。また、授業で完璧にわからないほうが、家庭学習を促すことができ、保護者にも納得してもらっていることも加えて回答されました。

○吉川大二朗先生（京都女子中学校・高等学校／ESN関西代表）ご挨拶・基調講演

吉川先生からは、ESNのご紹介と今後の英語教育の方向性と可能性についてお話がありました。それによると、2020年の教育改革では21世紀型学力が取り沙汰されているが、すでにその改革が足元から始まっている。例えば2020年より小学校で外国語が教科として扱われるようになるが、すでに全国の中学入試では外国語が入試科目として今年度より導入されている。ここ関西でも5,6校が導入している。これは我々英語教員にとってまたとないチャンスと捉えるべきだ。小学校での外国語教育の最終目標は英検5級合格程度の英語力の習得となっている。そうすると中学校からは現在の中2の最初レベルからスタートできる。いよいよ使える・話せる英語教育が見えてきたといった大変興味深いお話でした。また、公立中学校の英語指導レベルも上がってきているので、私立中学校の教員も本日の研究会などを通じて授業研究を進めましょう、というお話もありました。

○意見交換会

吉川先生が進行役となり、「各校の英語科におけるアクティブラーニング型授業の取り組みについて」と題して意見交換会が行われました。

アクティブラーニングとICTがどう結びつくのかといったテーマで、グループワークの形式で進行了ました。吉川先生からiPod touchを各グループに配布し、アクティブラーニングについてのアンケートを実施、その結果をiPod touch経由で、リアルタイムでモニターのグラフに表示させ、全体で逐次共有しました。

また、アクティブラーニングを先生方でどう定義するのかを、グループで話し合い、発表しました。あるグループからは「生徒が自発的、主体的に学び、課題を発見し、解決する学び」と発表されました。さらにアクティブラーニングを授業の中に取り入れるのに、各学校で取り組んでいることや各先生方の周りで見聞きしている情報を話し合って共有しました。あるグループからは、英語の授業で週に一度、海外(ハワイ)の学校の生徒と生徒同士だけで交流を深める。生徒自身で課題や研究テーマを決め、段階的に理解を深め発表(プレゼン)する。オンライン英会話のサービスを利用し、生徒が自作した英文を読み上げ、添削してもらい、それを原稿なしでスピーチするといった発表がありました。

第二部で非常に印象的だったのが、ある学校の先生が「自分の学校ではオールイングリッシュで授業をしたところ、保護者から子どもが先生の授業はわからないとクレームがあったりするのだが田橋先生はどのように対処されるのか」という質問があったことです。

恐らくほとんどの生徒も保護者も授業がわかりやすいかどうかでその授業の良し悪しや評価をすると思うのですが、授業でわかったつもりになることのほうが実は怖いという田

橋先生のお考えは当を得ていると思います。授業でわからないところがあるから家で復習をするというのはあらためて学習とは何かを考えさせる言葉であると思います。

先ほどの質問に対する田橋先生のお答えは、これからの世の中に必要な（英語）力は何かということを保護者にも理解してもらうことが大事だというものでした。

以上